

編集後記

『戦史研究年報』第 22 号をお届けします。

本号は平成最後の発刊となりました。

巻頭の「史料紹介」では、掲載論文テーマの 1 つである航空自衛隊創設期と関連・対比するものとして、日本陸海軍航空部隊の黎明期に関する史料を掲載しています。

「論文」は、戦史研究センター所属研究者による平成 29 年度調査研究成果の中から 3 本を掲載しました。藤井論文は 1942 年のビルマ戦における中国軍の事例を題材として中国側史料を駆使し、中国の対日戦略と軍事作戦の関係について考察したものです。西田論文は航空自衛隊発足前に旧陸海軍航空関係者の航空再軍備に向けた研究の実相を解明しようとするものです。新福論文は 1980 年代にアメリカ陸軍が戦略としてエアランド・バトルを起案するにあたり、機略戦理論を受容していたか否かについて検証するものです。

「研究会記録」は、オーストラリア・マードック大学マイケル・スターマ教授が発表された研究会の記録を掲載しました。太平洋戦争における日本の海上護衛戦とアメリカの対日潜水艦作戦の実態と問題点を、1944 年秋の「ヒ 72」船団の事例により検討したものです。

「国際会議参加報告」は、イスラエル・エルサレムで開催されました第 44 回国際軍事史学会大会の概要及び同大会で花田主任研究官が発表した論文(英語)を掲載いたしました。内容は第二次世界大戦末期のソ連の対日参戦に関してソ連側史料を使用してソ連の満州侵攻の実相を、さらには日本の対ソ外交における過信についても言及した論文です。

「活動報告」は、平成 30 年に戦史研究センターが実施した諸活動、史料閲覧室の閲覧状況などを掲載いたしました。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

(小椿 整治)